

'19

前期日程

国語小論文（教育学部）

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
2. 問題冊子は一冊（五頁）、解答用紙は二枚、下書用紙は二枚です。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所等があった場合には申し出てください。
3. 氏名と受験番号は解答用紙の所定の欄に記入してください。
4. 解答は指定の解答用紙に記入してください。
5. 解答用紙は持ち帰ってはいけません。
6. 問題冊子と下書用紙は持ち帰ってください。

1

次の文章【A】・【B】を読んで、後の問に答えなさい（なお、出題の都合により、一部表記等を改めた）。

【A】

言葉の真価は、誰が言ったかではなく、誰が聴いたかで定まる。中高生がとっておきの言葉を紹介する「私の折々のことばコンテスト」の秀作を読んで、そう思う。今回は三万を超す応募があった。

最優秀賞は熊本県の農業高校に通う ■■■さんの「あんたの根っこ見つけて水やり続けるねん」。大阪市出身。農業を学びたいのに親も先生も賛成してくれない。三年間、一緒に花壇の世話をした用務の男性だけが「自分の根は自分にしかわからへんねや」と応援してくれた。意外にも、名言の主は本紙の取材に「そんなこと言うたかな」と失念の体。でも■■■さんはその助言を受け止め、いま阿蘇山麓で充実の日々を送る。「全力で恥をかけ」で佳作に選ばれたのは、埼玉県の中学生■■■さん。生徒会の役員になれたが、全校集会の司会で失敗する。予定にあった先生の話をいくつか飛ばしてしまった。「落ち込んだけど、生徒会室の黒板に書いてあった先輩の言葉に救われた。恥をバネにしようと思いました」。神奈川県の高校生■■■さんは、祖父を亡くした昨夏の思いをつづる。母の友人で、津波に親をさらわれた女性からLINEで短文が届いた。「送れる幸せを噛みしめてください」。読んで、愛する家族に別れを告げることの重みを実感したという。迷い、躓き、別れ。一〇代が選んだ言葉にはどれも物語がある。ひるみながらも全力で人生にぶつかっていく。真剣に悩むからこそ、言葉が心の奥深くまで届く。

【B】

「これができる」とか「あれができない」を世の中では「能力」と言い、個々人の力と考えています。就職活動の際の「コミュニケーション能力」とは、自分の考えを整理し、相手にわかるように過不足なく伝える能力といった程度の意味に理解されているのでしょうか。学生たちは「コミユ力」が高い、低いの言い方になじんでおり、その個人差を意識しているようです。

（朝日新聞 二〇一八年一月六日）
許諾書番号19-1824 朝日新聞社
に無断で転載することを禁じます。

人間と人間のコミュニケーションは言語化しにくい部分があります。しかし、片方をロボットに置き換えると、いままで見えていなかった本質が見えることがある。私はそんな研究をしてきました。

例えば言葉です。ロボットが人間の言葉を一〇〇%理解しても、一本調子の返答だけでは、冷たく機械的な印象で、会話に思えません。ところが、わざと「言いよどむ」ように調整すると、一生懸命話す生き物らしさが出て不思議と耳を傾けたくなくなります。

その理由は、正確・簡潔に答えるロボットより、むしろ言葉に詰まったり、言い直したりするロボットの方が現実の人間同士のやりとりに近いと感じるからだと思います。

ふだんは意識しないけれど、人間は不完全さをお互い補い合い、コミュニケーションを成立させているのです。

例えば、二人の若い女性が雑談している話を、すべてそのまま書き起こしたことがあります。ハワイ旅行の思い出話をしていのに、書き言葉に変えると、意味不明です。言い間違えたり、話がそれたり……。ところがその場では、不完全なまま相手に委ねられた言葉は、相手の解釈によって補われ、コミュニケーションが成立するのです。

私たちの「あいさつ」だってそうでしょう。相手が返してくれて初めて、あいさつとして意味を持つ。返してくれないと宙に浮いたままです。

つまり、言葉を話すとは表現行為であると同時に、知覚したり、探索したりする要素も含んでいるのです。自分が主体として言葉の意味を一〇〇%決めているように見えて、相手が受け取らないと完結しないのです。電車の中で携帯電話で話す人の声を快く感じないのは、私たちが無意識にセットとして考えている「受け手」の言葉が聞こえないからかもしれません。

それならコミュニケーションに能力という言葉をつけて個人に帰属させるより、コミュニケーションとは二人の持ちつ持たれつの間で立ち現れる関係だと考えるべきです。

つまりコミュニケーションとは、不完全な私たちが、お互いを補い、支え合うなかで生じる関係の力です。言い方を変えれば、自分の弱さ、不完全さを上手にそして適度に他者に開示することによって、相手の手助けを引き出していく力とも言えるでしょう。

問 本文【A】・【B】の内容を踏まえ、社会生活に必要な言語コミュニケーション能力について、あなたの考えを述べなさい。
(八〇〇字以内)

次の文章を読んで、後の問に答えなさい（なお、出題の都合により、一部省略し、一部表記等を改めた）。

落語「水屋みずやの富とみ」は、富くじに当たって大金を得た男の滑稽話である。

上水道のない時代、飲み水を運んで売る水屋という商売があった。その男、水屋稼業でまじめに働いていたが、ふとしたことで富くじに当たってしまう。一番富の千両である。大金を手にして家に帰ったものの、長屋のこととて、金をしまっておく場所がない。押入の中、神棚の奥と思案をめぐらす、とうとう畳をはいで縁の下に隠した。だが、取られはしまいかと気になつてしようがない。昼は、おちおち商売もできず、夜は夜で悪夢にうなされる。ふらふらになりながら、早く跡継ぎを見つけて水屋を廃業してしまおうとするが、思うようにいかない。水屋の不審な挙動に気づいた向かいの遊び人。ある日、水屋の出かけた後、その大金のありかをつきとめ、そっくりいただいてとんずらしてしまう。帰宅した水屋。あるはずの大金がない。大いに悲嘆に暮れる。が、少し間を置いて、落ち。——「これで今夜は眠れる」。

この話は、持つことの不幸を説いている。日々の幸せとは何かを考えさせる話である。人は、生きるため、精を出して働く。物や金。それを得ることも大事な目的の一つである。だが、度をすぎた物や金が入ったとき、人は本当に幸せになれるのか。かえって心の平安が乱されてしまうのではないか。逆説的ではあるが、私たちはこの滑稽話を通して、持たざることの幸せをしみじみと感ずる必要がある。

ところで、こうした思想は、すでに二千年以上前の中国で、はっきりと説かれていた。『老子』にはこうある。

持して之を盈みたすは、其の已やめんには如かず。……金玉堂に満つれば、之を能く守る莫し。富貴にして驕おごれば、自ら其の咎とがを遺のこす。功遂げ身退くは、天の道なり。（『老子』第九章）

「天の道」にかなうとはどのような身の処し方か。それは、自然に沿って無理をせず、一步身を退くという生き方である。

人々は学問による向上を目指し、立身出世を人生の重要な目的とする。だが、『老子』は逆に、身を退くことが「天道」、すなわち世界の正しいあり方であるというのである。それは、そうした世俗の人々の頑張りが、決して長続きはせず、かえって人の心を不幸にすると考えたからである。

そして『老子』は、見習うべき卑近な例として、「水」の姿を指摘する。最上の善とは「水」のようである。なぜなら「水」は世界の万物に大きな恩恵を与えるだけで、万物と争うようなことは決してしない。暗く低く狭いような、誰もがいやがるところに平気で赴き、汚れ役を引き受ける。これこそ世界の理想、すなわち「道」の性格に近いといえる。

上善は水の若し。水は善く万物を利して而も争はず、衆人の悪む所に処る。故に道に幾し。(第八章)

また、世の中を見渡してみても、「水」以上に「柔弱」なものはない。水は「柔」らしく、どのような地形・形状にも柔軟に対応して自らの姿を変えていく。水は「弱」々しく、赤子の手ほどの力で、すくい取ることも、かき混ぜることもできる。このように「見」柔弱な水ではあるが、「堅」くて「強」いもの、たとえば、巨大な岩や壁も、「水」には勝てない。

天下に水より柔弱なるは莫し。而も堅強なる者を攻むるに、之に能く勝つこと莫し。(第七十八章)

このように、『老子』は、文明化の恩恵を受けて現代に生きる私たちに、強烈なメッセージを送ってくる。文明化、現代化、それが本当に幸せなことなのかを問いかけてくるのである。

(湯浅邦弘『諸子百家 儒家・墨家・道家・法家・兵家』二〇〇九 中公新書 一五三一―一五八頁)

問 傍線部について、『老子』(第九章・第八章・第七十八章)を踏まえ、あなたの考えを述べなさい。(四〇〇字以内)

